

第895号

令和5年11月27日

佐渡市立金井小学校

佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

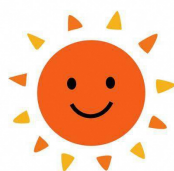
困り感に寄り添う



佐渡市立羽茂小学校
校長 小池 貴弘

夏季休業中に、新型コロナウイルスに感染しました。私は特に味覚障害がひどく、何を食べても強い苦みを感じることに悩まされました。子どもたちの中には、大きな音や衣類の肌触り、食べ物の食感などが苦手というような、感覚過敏の特性がある子がいます。周囲が当たり前のようにやっていることが、自分にとっては耐え難いものであるという感覚の違いは、本人の努力や心掛け等でどうにかなるものではありません。まして子どもであれば、その困り感をうまく言葉で伝えることもできません。私は新型コロナウイルスに感染し、特性をもつ子どもたちが日々感じている困り感を、少しは理解できたような気がしました。

他者とまったく同じ感覚を共有するということは、ほぼ不可能だと考えます。しかし、子どもの困り感をできるだけ正確に理解しようと努めることは可能です。「〇〇が苦手」という困り感に寄り添い、そこをスタートラインとした支援を心掛けたいと強く感じました。



嬉しいことは倍返し！苦しいことは半分こ！

子ども若者相談センター
相談センター長 田村 京子

タイトルは、4年前子ども若者研修会で講演を頂いた「こどもの虹情報研修センター」臨床心理士の中垣真通先生からの言葉です。それ以来この言葉は私の中で大切なお守りになり、子若センターに来て頂いた方々にも、このような対応ができたかと心掛けています。中垣先生から、「子どもの様子を自転車の一人乗りにも例えてみる」という話がありました。自転車を一人で乗れるためには技術が必要で、お家の人に押さえてもらって練習します。そろそろ大丈夫と思う時そっと手を放し、子どもは「一人で乗れた！」と自信がつき、一人乗りができるようになります。ですが、技術があっても一人で乗りたくない、乗れない時もあります。例えば不安や心配がある時、心のエネルギーが少なくなっている時等です。心のエネルギーを充電する為に、話をしっかり聞いてもらったり、一休みをしたり、「大丈夫だよ」とそっと背中を押してもらったり・・・子どもの気持ちが理解できると子どもへの手当も変わってくるというお話でした。

子育ては「なんで？」と思うことばかりです。そんな時、一呼吸おいて、こんな風に考えられたらと思います。そして「嬉しいことは倍返し！苦しいことは半分こ」の気持ちで、子どもたちもお家の人や地域の人みんなと取り組めたらいいなと願っています。



二種類の共感

共感は大切だとよく言われますが、共感には二種類あります。英語で言う「シンパシー」と「エンパシー」です。簡単に言うと「シンパシー」は相手と同じ気持ちになること、「エンパシー」は相手の立場に立って気持ちを受け入れることと言えます。

授業中、指名されなくても発言しがちな A さんがいました。「先生にあてられた人がなかなか答えられないけど自分は答えを知っている。こんなときどうする？」と聞くと「教えてあげる。」とのこと。理由は「教えてあげた方が次の問題に進めるから。」でした。「なるほど。授業が進むようにしようと思ったんだね。」と受け入れ、考えている最中に答えを言われた側の気持ちを考える活動につなげました。

人前での表現が苦手で、発表会に参加したことがない B さんがいました。担任の先生の綿密な計画の下、様々な経験を積んだ B さんは発表会で無事に発表できました。「発表会を楽しみにしていた。」という情報を得て B さんに感想を聞くと、「たくさん人がいて嫌だった。」とのこと。「たくさん人がいて（緊張した。緊張感が）嫌だった。」と解釈し、「嫌だったのに頑張ったね。」と称賛しました。

これらは「エンパシー」の方の共感で、相手に安心感を与えた上で関われるのでお勧めです。ちなみに、「阪神タイガースが日本一になってうれしい。（スポンサーの）JOOSHIN が安くなるから。」という C さんに私は「分かる！」と言いましたが、これは「シンパシー」ですね。（中村 哲裕）

第2回学習会が開催されました

11月11日（土）、映画「注文に時間がかかるカフェ－僕たちの挑戦－」の上映と発起人である奥村安莉沙さんの講演会が行われました。約70名近くの方にご参加いただきました。

奥村さんは、ご自身が幼い頃から吃音で悩んでこられました。そのご経験を基に、未来ある子どもたちに辛い思いをしてほしくないとの思いで活動をされています。私たち大人が少しでも理解を広げていくことが何よりも大切なことなのだと痛感いたしました。このお話から、私たちができることは何か次につなげていきたいと考えています。



親の会コーナー



保護者の声

生活することは

中学生保護者

私が6人の子育てをしていく中で意識していること。それは、「自己決定でき、自分らしく生活できる人にする。」ということです。人生においては、自分で考え、いかに納得した選択ができるかが大切なように思えるからです。我が家では、家事の時間をできる限りルーティン化しています。そうすることで、朝や帰宅時の行動を、子どもたちが考えやすくなるからです。時間や身のまわりを自己管理し、家事は興味がでたらどんどん経験してもらいます。お手伝いではなく、家族の一員として協力しているという気持ちに加えて、自分や家族の心身を心地良くするものであることを実感できるように、一緒に家事を楽しみたいと思います。

第1回判定会議が行われました

9月25日（月）ことば・こころの教室「第1回判定会議」が開けられました。保育園・幼稚園・小中学校在籍のお子さん合わせて新たに約50名の入級が認められました。入級している子どもたちのために、職員一同全力で取り組みます。ご協力よろしくお願いいたします。

第2回運営会議が開かれました

11月15日（水）に第2回運営会議が開かれ、今年度の中間報告と次年度の教室運営について審議が行われました。ご意見を今後の教室運営に活かしていきます。

